

光太郎の詩を朗読する女川町の児童



光太郎しのび詩朗読

戦前に訪れた女川で祭り

戦前に女川町を訪れ、紀行文や詩を残した詩人で彫刻家の高村光太郎（1883～1956年）をしのぶ光太郎祭が、同町のまちなか交流館であり、県内外から約60人が参加した。「女川・光太郎の会」が主催。朗読の部では、光太郎が女川漁港の様子を記した紀行文や詩集「道程」などの詩を、女川小の児童ら15人が読み上げた。朗読に先立つ講演では、高村光太郎連翹忌運営委員会の小山弘明代表が光太郎の晩年の姿を紹介。終戦直後から7年にわたって花巻

市の山荘に暮らした光太郎の心理を解説した。小山代表は一連の戦争を賛美する詩を書き連ねたことに罪の償いの思いがあつたと説明し「（あえて）不自由な山奥を選んだ。彫刻家の自負もあったが、行いへの反省から一度も彫刻を作らなかつた」と述べた。光太郎は1931年に時事新報社の依頼を受け、石巻から宮古までを旅した。91年には女川港近くに、光太郎来訪を記念する文学碑が建立された。光太郎祭は92年に始まり、今年9月に開催された。

問題

- ①高村光太郎の職業は何ですか。二つ答えましょう
- ②光太郎が女川を訪れたのは何年ですか。
- ③光太郎は終戦直後から7年にわたって花巻市の山荘に暮らしましたが、あえて不自由な山奥での暮らしを選んだのはなぜですか。

（中学生／朝の会前の時間）

出題者から

高村光太郎は高名な彫刻家を父に持ち、本人も彫刻家、詩人として認められ裕福な生活をしていました。しかし、戦争賛美詩により多くの若者を死に追いやってしまったと悔やみ、山奥に暮らします。「道程」「智恵子抄」などの有名な詩集にも見られる美や真実を追究しようとする光太郎の姿勢は、生き方にも表れているように思います。

（日本新聞協会NIEアドバイザー・仙台市高森中教諭 木下晴子）

9月1日こども新聞ワークシート模範解答

設問

①高村光太郎の職業は何ですか。2つ答えましょう。

詩人、彫刻家

②光太郎が女川を訪れたのは、何年のことですか。

1931年

③ 光太郎は、「終戦直後から7年にわたって花巻市の山荘に暮らし」ましたが、「(あえて)不自由な山奥を選んだ」のはなぜですか。

一連の戦争を賛美する詩を書き連ねたことに罪の償いの思いがあったから